
2) エネルギー資源の国内調達困難

再エネの主力である太陽光や風力も、土地制約・自然条件・系統接続の課題などがあり、大規模導入には限界があります。また、水素やアンモニアといった次世代エネルギーも、多くを海外からの輸入に依存する可能性が高く、エネルギー安全保障と両立させる必要があります。

3) 産業構造の転換負荷

製造業や建設業などエネルギー多消費型産業は、日本経済の根幹を支える重要な分野です。脱炭素を進めるには、生産プロセスそのものの変革が必要ですが、それには多額の投資・人材育成・サプライチェーンの再編が求められます。

4) 地方と都市の格差・温度差

都市部ではZEBや再エネ導入などの取り組みが進む一方、地方では予算・人材・インフラ面での制約が大きく、地域間格差の拡大が課題となっています。脱炭素は全国的な動きであるべきにもかかわらず、実行力に偏りがあるのが実情です。

(2) 世界のカーボンニュートラル実現に向けた主な課題

世界もまた地球温暖化の進行を抑えるため、あらゆる手段や技術を用いてカーボンニュートラルに取り組んでいます。次のような大きな課題があります。

1) 技術の未成熟と高コスト

再生可能エネルギー、CCUS (CO₂回収・利用・貯留)、水素技術などはまだ商用化が限定的で、導入には高額な初期投資が必要。特に途上国では、技術導入のための資金やインフラが不足しています。

2) 国際的な経済格差と公平性の問題

先進国と途上国の間で、温室効果ガス排出量削減の責任や能力に差があることが指摘されています。途上国は経済成長と環境保護の両立が難しく、技術移転や資金支援が不可欠となっており、カーボンニュートラルは二の次という考えが根強くあります。